2026年1月NHK国際放送番組審議会

1月のNHK国際放送番組審議会は、20日（火）、NHK放送センターにおいて、10人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず最近の国際放送の動きについて説明があり、意見交換を行った。その後、BOSAI: Science that Can Save Your Life「Kyoto」、「How Tokyo Skytree Deals with Disaster」について説明があり、意見交換を行った。

最後に、国際放送番組の放送番組モニターと視聴者意向の報告を行い、会議を終了した。

（出席委員）

委員長	渋澤　健	（シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役／コモンズ投信株式会社 取締役会長）
副委員長	坂野　晶	（一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパン 代表理事）
委員	遠藤　乾	（国際政治学者／東京大学大学院法学政治学研究科 教授）
	大庭　三枝	（神奈川大学法学部・法学研究科 教授）
	髙祖　歩美	（情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 NBRP広報室長）
	佐座　槙苗	（一般社団法人SWiTCH 代表理事／サステナビリティ・アドバイザー）
	芝田　浩二	（ANAホールディングス株式会社 代表取締役社長／全日本空輸株式会社 取締役会長）
	杉山　晋輔	（早稲田大学 特命教授／元駐米大使）
	徳井　直生	（株式会社 Qosmo 代表取締役／AI研究者／アーティスト）
	ブライアン・バークガフニ	（歴史学者／長崎総合科学大学名誉教授／グラバー園名誉園長）

（主な発言）

＜最近の国際放送の動きについて＞

○　災害時の情報提供ツールとしてNHKワールド JAPANのアプリを訪日外国人にPRしたというのはよい取り組みだった。一方で、アプリやウェブ上で、実際に災害が起きた際にどこを見ればよいのか疑問を持つ人もいるのではないかと思った。「日本に関する情報がある」だけではなく、「災害時に役立つプラットフォーム」として認識されれば、ダウンロードの動機付けもより強まると思った。

また、空港や電車内での情報発信は有効で、積極的に連携を働きかけてもらえればと思った。SNSなど動画を使った情報発信では、動画の内容が分かりづらいため、短く内容を示すなど工夫が必要だと感じた。アプリを更に活用してもらうためにも、情報の見せ方を改善するとよいのではと思った。

○　確かに訪日外国人のほとんどがスマートフォンから情報を得ているので、サービスの分かりやすさは大切だと思う。また、今年の丙午（ひのえうま）は大変な暴れ馬になっていて、毎日のようにさまざまなニュースがある。それらをきちんと日本発で世界に情報発信していってほしい。

＜BOSAI: Science that Can Save Your Life
「Kyoto」（8月23日(土)放送）
「How Tokyo Skytree Deals with Disaster」（6月21日(土)放送）
について＞

○　防災はNHKワールド JAPANが取り組むべき最重要テーマの一つであり、今回の番組は非常に優れた内容だと感じた。防災は日本が誇るノウハウであり、積極的に発信すべきコンテンツである。こうした取り組みは大変すばらしいと思った。
「Kyoto」は、神社仏閣の防災という切り口で、見事に日本ならではの知見という形で発信をしていて、興味、関心を得るという意味だけでなく、実際に見ていて楽しく、出演者が一緒に体験をして回る形になっていて、とてもよくできていると思った。
「How Tokyo Skytree Deals with Disaster」も一緒に体験しながら進む構成がとてもよかった。前半は東京スカイツリーという建造物の防災について、後半では墨田区全体の防災にも貢献する機能や役割があることがわかった。ただ、建造物の話から地域防災の話へ移る番組上の境目が少し分かりづらいと思った。
東京スカイツリーの来訪者に「今災害が起きたらどう思うか」とインタビューで聞いていたが、中には怖がる人もいたのではないか。逆に、インタビュー自体が東京スカイツリーの防災対策を知ってもらうよい機会にもなったのではと思った。

○　番組は2本とも作り込みを含め、本当にすばらしいと思った。画像もきれいで、特に「Kyoto」の妙心寺の放水シーンは圧巻だった。「How Tokyo Skytree Deals with Disaster」でも、望遠レンズで寄っていくワンカットは、私自身がカメラ好きなこともあり、非常によい見せ方だと思った。
番組の内容は全く違和感なく視聴した。ただ、「BOSAI」というシリーズで年間放送しているとのことで、どういった人が視聴しているのかが気になった。妙心寺の放水シーンをSNSで発信したところ、海外の多くの人に見てもらえたとの報告があったが、それぞれ関心のある人たちが見て、自分のこととして捉える人もいれば、技術に関心を持つ人もいると思う。制作側として何を訴求したいのか知りたいと思った。
例えば、「日本は自然災害が多く、地震もあれば火事もある」と、日本に来ることに不安を感じる人たちに対して、災害時のアプリ利用促進も含めて「日本は安心・安全な国です」

というメッセージもありうると思うし、あるいは「地震対策、火事対策をしっかり行っているので、どうぞお越しください」というメッセージもあると思う。私はどちらかというと、後者なのではと思っている。

○　私は、とても楽しく興味深く視聴した。「Kyoto」で紹介された文化財を守るための放水銃などの防災システムは視覚的なインパクトが大きく、日本の技術力を効果的に伝える演出だったと思う。伝統ある寺社が最新技術で守られていることもよく理解できた。「How Tokyo Skytree Deals with Disaster」の回も含め、私自身とても勉強になった。

一つ気になったのは対策や技術にかかる費用面のことだ。技術の粋を尽くせば、さまざまな安全策をとることは可能だが、もう少し費用についてフォーカスしてもよいと思った。災害対策には必ず費用がかかり、事業者や自治体、政府には予算の制約がある。防災は技術の問題だけでなく、全体のガバナンスの問題でもあり、実際に対策を行う側として、コストをどのように考えているのかなどにも焦点を当ててほしかった。

○　日本にとって防災は非常に大きな問題だ。日本は地震や火事など災害が多く、京都は、日本の文化的な特徴の一つである木造建築が多い。火災対策で清水寺が重要文化財の持ち出しをどのように行うのかということは興味深くて、映像もよくできていた。

「How Tokyo Skytree Deals with Disaster」は、耐震についてだったが、2000年に一度吹くかどうかの暴風にも耐えられる設計とのことで、揺れないようにできていることは全然知らなかった。また、単に観光地としてだけではなく、関東大震災の反省を生かして、避難所も担うなど被災者を守る役割もあるとは知らなかった。日本の国際放送で取り扱う意味があると思った。

ただその上で、国際放送でこの番組を放送する意味や、重点はどこなのかが気になった。

○　2つの番組を非常に興味深く視聴した。シリーズで放送していて、ほかのエピソードも視聴したが、15分という短い時間にしては内容が少々盛りだくさんで、番組の趣旨が少し把握しにくい印象もあった。

「How Tokyo Skytree Deals with Disaster」では、地震対策について紹介されていたが、例えば京都の東寺にある五重塔のように、日本には伝統的な地震対策の知恵があり、歴史的にも防災意識が深く根付いていると思う。ただ、番組ではそういった日本の文化や精神と防災のつながりにはあまり触れられず、技術面が中心だったように感じた。

「Kyoto」については、番組動画の切り出しがSNS上で多くの人からアクセスがあったとのことで、京都の持つ世界的な魅力が視聴の後押しになったと思う。伝統文化の保護

と防災対策のバランスをどうとるかという、イタリアのベネチアなどにも共通する課題であり、国際的に関心の高いテーマだと思った。番組は短時間ながら内容が非常に濃く、今後のシリーズも楽しみにしている。

○　全体的にふだん見られない、寺の防災の仕組みなどを知ることができて、とても面白かった。ただ、「人の命を救うサイエンス」というサブタイトルから想像した内容とは、少しずれを感じたというのが正直な感想だ。妙心寺の放水ポンプの防災システムも確かに映像的にとてもきれいだったが、どの辺りが最新の技術なのかがよく分からなかった。それ以前のシステムや、海外の同様の施設との比較などがあると、もっと分かりやすかったのではないか。

非常に細かいことだが、野球場を例に出して面積を表現する場面があったが、野球は世界的に見るとマイナーなスポーツで、サッカーグラウンドなどと比較したほうが分かりやすかったのではないか。

「How Tokyo Skytree Deals with Disaster」は、模型を使った説明が分かりやすく、耐震構造の工夫を理解しやすかった。一方で、トラス構造への言及があったが、東京タワーやエッフェル塔にも使われている一般的な技術だと思うので、東京スカイツリーでどのような意図で使われているのかが知りたかった。

○　日本は災害の非常に多い国で、防災先進国でもある。そこでの最前線を取材すると、やはり世界が注目するような構図になる。東京スカイツリーも技術的にすばらしいと感じたが、私が驚いたのは、「Kyoto」で紹介された消火剤（カリウムを主成分とした薬剤を放出するシート）だ。なぜあのようなもので火が消えるのか、いまだによく分からないが感銘を受けた。

ただ、防災だけではなく、例えば東日本大震災以降に重視されてきた「減災」や「被災者ケア」など、日本で歴史的に変化してきた災害に対する視点が番組ではあまり見られず、技術による災害防止に比重が置かれていた点が気になった。災害は防ぎきれず被災者が出るものであり、日本はそのケアにも多くの努力を重ねてきた。それを世界に伝える意義は大きいはずだ。ほかのエピソードを視聴していないため分からないが、今回の視聴番組には、そういった被災者の視点が少なかったので、災害というものの全体をカバーする視点も必要なのではないか。

○　日本の観光名所という要素に、防災という世界が日本と結びつけて理解しやすいテーマ、そして科学技術を掛け合わせた番組で、NHKが掲げる「日本の視座」を伝えるという方針に合致した内容だと感じた。各地で行われている災害対策については知らないことも多く、私にとって非常に学びの多い番組だった。

「How Tokyo Skytree Deals with Disaster」は、地震対策を模型で示す場面が

特に説得力があり印象に残った。また、東京スカイツリーに避難所としての機能があることも知らなかったので、驚いた。有名な建物に焦点を当てつつ、地震や台風、避難所など多角的に防災を紹介する構成は分かりやすくよいと思った。

一方「Kyoto」では、火災対策の場面で“state-of-the-art”、“cutting-edge”（最先端技術）という表現が使われていたが、やや違和感があった。火の粉が飛んでくる前に放水して屋根を水浸しにしておくなど、技術よりも発想にポイントがある印象を受けた。

全体的に楽しく視聴したが、今後どのようなテーマを考えているのか。また、今回の2つのエピソードは災害に対する準備や対策についての内容だったが、過去に起きた災害時に実際に活躍した技術や、こういった心構えがあったから減災できたというようなテーマも取り上げているのかについて知りたい。

○　私は知らなかったことが多く、特に東京スカイツリーに直径8mもの巨大な柱があることには驚いた。また京都の寺社の防災では、災害時に仏像の頭部だけを避難させる発想など、思わず笑みがこぼれるシーンもあり、楽しく視聴した。2つのエピソードには、日本が世界に誇れる技術が詰まっており、日本への理解を海外で広げるためにも積極的にPRすべきだと思った。

シリーズ全体として技術面に焦点が当たりがちだが、防災には都市のレジリエンス（復元力）と人のレジリエンス（回復力）の両方が重要だ。これらの掛け合わせで今後どのようなエピソードが制作されるのか興味深いと思った。

日本では学校などで地震避難訓練をするなど防災教育が徹底しているが、世界では地震が多い国でもそうした教育がほとんど普及していない。技術だけではなく人材育成や教育も含めた防災の視点を紹介すると、より意味のあるものになると感じた。また、日本では国レベルの防災教育とともに、地域性を生かした対策が重視されているので、そうした情報を~~も~~紹介してもよかったと思う。

東京スカイツリーの建設には多額の費用がかかっており、他国が簡単に真似できるものではない。より導入しやすい形の技術提供やコスト面に配慮した防災についてのシリーズがあれば役立つだろうと思った。環境面でも、防災対策は修復コストの削減や温室効果ガス排出の抑制につながるので、そうした情報もあるとよいと感じた。

○　訪日・在留外国人には地震に慣れていない人が多いため、今回のような分かりやすい映像で丁寧に情報を伝えることは非常に重要だと感じた。「安心して日本に来てください」というメッセージも明確で評価できる。

「How Tokyo Skytree Deals with Disaster」は、構造面と役割面の説明が分かりやすかったが、番組でも紹介していたドバイやクアラルンプールなど世界の高層建築の対策や技術などの比較があると、東京スカイツリーの独自性がさらに際立ったのではないか。

「Kyoto」では、大雨などによる土砂災害を予測するための雨量ゲージが紹介されていたが、一定量に達した場合になにをするのか、次のアクションにも触れてほしかった。

15分間という短い時間では難しいのかもしれないが、2つのエピソードに共通して、安心のための取り組みを示すだけでなく、実際に災害が起こった時にどのように行動すべきかガイダンスがあれば、番組としてよりよかったのではないかと感じた。また日本人も知っておいたほうがよい内容なので、国内向けにも放送したほうがよいと思った。

（なお、欠席の委員より、文書で次の意見が寄せられた）

○　「Kyoto」は、どのように自然災害へ備えているのかを丁寧に伝えており、視聴者に安心感や信頼感を与える内容だと感じた。一方で、画面に表示されている文字のフォントや色がやや目立ち過ぎており、より落ち着いたデザインが望ましいと思った。訪問者へのインタビューも「京都のどこが好きか」より「滞在中に自然災害を意識したことはあるか」と聞いたほうが、番組テーマにより一致したのではないか。カメラワークも後ろからのカットや上半身のみの映像が多く、控えめで洗練された構図にする余地があったように思った。文化財保護の取り組みが中心だったが、京都市内の避難所の数や、人々の安全に関する情報も紹介されていれば、京都が安全に力を入れていることがより伝わったと思う。

「How Tokyo Skytree Deals with Disaster」は非常に分かりやすく、情報量も豊富でとてもよい内容だった。東京スカイツリーの構造について説明が明確で、科学的な難しい内容にもかかわらず、台本がよく練られていて理解しやすい構成になっていた。この番組を見た人の多くが、先端技術の結晶である東京スカイツリーを実際に訪れてみたいと思うのではないか。

また、番組に登場する専門家ゲストの呼び方についてだが、KONISHIと姓のみで呼ぶのではなく、Mr. KONISHIのように敬称を付けたほうが、より自然で丁寧な印象になると思った。

○NHK 側

NHKワールド JAPANでは多様な災害関連番組を放送しており、今回は比較的技術面を中心に扱ったものとなったが、地域の復興や命を救うにはどうすればいいのかといったテーマも、東日本大震災から15年となる今年、幅広く取り上げていく予定だ。

「BOSAI」は、訪日外国人が年間4，000万人となり、地震に慣れておらず、小さな揺れでも慌ててしまう人が多いため、最低限の知識を持ち、行動できるようにとの意図で制作している。VODでも多くの人に視聴いただいており、訪日前に災害への備えで視聴している、もしくは在留外国人の方が参考にしていると考えられる。これまで制作してきたほかのエピソードでは

「洪水になったとき」や「大規模停電になったとき」など幅広いテーマで実用性が高い情報を詳細に紹介している。

○NHK 側

番組開始当初は、日本の防災技術が私たちの安全を守っていることを伝え、線状降水帯や地震・津波など災害の仕組みを分かりやすく説明することを柱としていた。災害のメカニズムを理解することで、その恐ろしさや備えの必要性が腑（ふ）に落ちると考えたためだ。初期は「津波」などシンプルなテーマが中心だったが、次第に多様化し、都市防災や地方独自の防災システムも扱うようになった。

番組内で表示される文字情報への指摘などは真摯に受け止め、今すぐにでも対応策を考えたい。

「最先端技術」ということばがマッチしていない部分があったのではないかという点は、番組的に説明が足りていない部分で、構成やコメントの向上をさらに目指したい。

コストについて触れたほうがよいとの指摘は重要だと思った。最先端の技術については開発も含めてコストはかかり、ある程度しかたのないことだと思っている。ほかのエピソードでは、もっと安価で環境に配慮し長く使える防災技術や防災グッズなども紹介している。今後は指摘も踏まえて制作していきたい。

被災者の目線については、最近では避難所の仕組みがどのように改善されてきたのかや、最先端の被災者ケアについても紹介した。今後も続けていきたい。

他国との比較は、15分という番組尺では扱いが難しく、海外と並べると「日本のほうが優れている」という印象になりやすい。そのため、必要な場面があれば触れたいが、まずは日本の最先端の地震対策技術や、細やかな防災への配慮をしっかり伝えることを重視している。

○NHK 側

番組づくりで最初に意識したのは、自然現象を深く理解することで防災のポイントが見えてくるという考え方だった。基礎研究によって自然の理を知り、それを技術に生かして災害を減らす、その最先端の流れを紹介することを基本に進めてきた。

またコロナ後に外国人観光客が増えたことから、地震が発生した際の行動やホテル火災への対処など、基礎的な実用情報も重要だと考えるようになった。現在は、最先端技術と実用的な防災知識を組み合わせ、日本を訪

れる人に役立つ内容を目指している。

〇NHK 側

国際放送局では、訪日外国人の目にとまりやすい電車やバスなどでNHKワールド JAPANのアプリのダウンロードを促すプロモーションを展開している。アプリをダウンロードし情報を登録すると、地震や津波があったときにプッシュ通知が来る仕組みで、英語のほか多言語にも対応している。番組も含め、こうした防災や減災に役立つ情報発信は、われわれの使命の一つでもあると考えている。引き続き、いただいた意見をしっかりと生かしながら取り組んでいきたい。

NHK国際放送局
番組審議会事務局